

見附市教育センターだより



〒954-0052

見附市学校町2-7-9

電話/Fax 0258-62-2343

E-mail mrisen@mitsuke-ngt.ed.jp

令和8年2月13日 NO. 11

「国道8号線 メタセコイア並木」

「教員の魅力と財産」

教育センター運営委員(南中学校 教頭) 石澤 克彦



「教員って大変だね」とよく言われる。教員という職業は「ブラックだ」と言われて久しい。「働き方改革」の名のもと、国や県や市町村、そして、学校現場でも「ワーク・ライフ・バランス」を重視し、業務の精選や地域の力も借りながら、超過勤務時間の短縮に努めている。

しかし、「大変だ」「多忙だ」というイメージが先行し、教職離れが起こっているのは事実である。確かに業務改善が進み、超過勤務の時間は少しずつ減ってきてはいるが、世間の印象はまだまだ払拭されてはいない。

では、教員は本当に「ブラック」なのだろうか。勤務時間等から見ればそうかもしれないが、私は決してそうは思わない。教師という職業は、児童・生徒の育成に携われる大きな魅力がある。入学した時の幼い顔が、卒業する頃には凛々しい顔になる。そんな成長した姿に遇えることは、本当に幸せなことである。もちろん、突発的なできごとは日常茶飯事である。生徒指導案件や保護者対応に追われるたびに、「大変だ」「面倒だ」とマイナスの感情が先立つこともある。私たちは「人」を相手にしている職業だから、思った通りにいかないことは当然のことである。先輩や同僚の力を借りながら、組織で対応にあたる。問題が解決に向かったときはどうだろう。何とも言えない達成感や安堵の気持ちが生まれる。そして、時間をかけて向き合い、成長を見守ってきた生徒が卒業を迎える瞬間の感動は、教師冥利に尽きる。

教職に就いたばかりの頃、先輩から「教員は財産がつくれるよ」と、言われたことを今でも覚えている。それはお金の話ではなく、「卒業後、社会で活躍する生徒を育成しなさい」ということである。卒業した後、同窓会等で当時の思い出を語ってくれたり、近況を話してくれたりする。その姿に元気をもらい、自分の仕事の意味や成果を実感できるのである。



教員は本当に魅力ある職業である。私たち自身、日々研鑽を積み魅力あふれる教員となり、“教員の道”を志す子どもたちを増やしていきたいものである。

巻頭写真に寄せて 国道の「メタセコイアの並木」に癒される

◇積雪時になった朝は、毎冬、市内幹線道路が渋滞をきたし、通勤が大変になる。さらに大雪警報が出れば、NEXCO 東日本と国交省北陸地方整備局は、北陸自動車道と国道 8 号線の通行止めを発表する。

今冬 1 月中旬までは大雪にならなかったが、下旬に入ると天気予報が、大雪の国道 8 号線 (坂井町) 「今後、北陸地方に JPCZ (日本海寒気団収束帯) がかかり…不要不急の外出は避け…」と伝えたとしたら、すぐに予防的措置として、国道 8 号線の一部区間が閉鎖された。この閉鎖区間は、必ず上越方面から見附市坂井町 (坂井北交差点) までになる。安全を考えた措置であり、交通事故が起きたり、車が立ち往生したりしてからでは遅いので仕方ないが、私のように新潟市方面から 8 号線を通う者は、とんでもない混み方に閉口する。今年も大渋滞につかまり困ったが、ようやく大雪も峠を越えたようだ。間もなく春の気配が感じられ、心ときめく季節の到来だ。

◇さて、国道 8 号線を三条方面から長岡方面に来ると、三条市千把野から見附市坂井北までの 1 km 程は両側に建物がなく、まったくの田園風景になる。この東側にメタセコイア (巻頭写真) が植えられていて、春夏秋冬、季節毎に色合いが変わり、誠に美しく心が癒される並木である。



コラム 「 経験豊かな先生に学び、心にゆとりと笑顔を手に入れよう 」

◇教育委員会の「新年会」に参加をした。会場は 8 名ずつが 1 テーブルで、座席はくじ引きで決まり、私のテーブルは、私以外全員が保育園の先生方になった。私は普段、保育園へ行く機会がなく、皆さんと「何を話したら良いか」と緊張をしたが、笑顔で話される先生方と話が弾み、楽しい会になった。



◇さて、各学校でもコロナ禍に途絶えていた新年会をやっているのだろうか。私が、師がくで接する先生方は、今回一緒になった保育園の先生方より、やや笑顔が少ないように感じる。それも、若い先生にそのことを感じる。仕事に慣れていない。多忙である等が要因と思われるが、時には、全職員で息を抜く時間も必要であり、また、その時間は息抜きばかりではない。若い先生は、経験豊かな先生に悩みを聞いてもらう。指導技術を教えてもらう等、有意義な時間になるからである。学級経営も教科指導も色々な技術を知っていると、気持ちに余裕ができて、笑顔が増えること間違いなし。若い先生方、様々な会合に参加をして、息抜きと同時に、先輩たちから多くのものを学んで欲しいものである。

「 明るい笑顔いっぱいの若い先生、二人の紹介 」

◇上述と相反した紹介になるが、若い先生で笑顔いっぱいの人がいる。A 小学校の B 先生 (上写真 2 枚) と C 先生 (下写真 2 枚) である。1 枚目は、4 年 1 組担任の B 先生が、11 月 21 日 (金) に全教員と大学関係の先生方も参加の授業研究 (大研) で、国語「ごんぎつね」の授業である。学級のこどもの数より多い参観者。それも黒いスーツ集団に囲まれての授業。開始前に、いつもと違う雰囲気の中、B 先生がこどもたちに言った言葉に感動をした。「みんな緊張していない? しているよね。私、緊張している。トイレに行きたくない? 私、行きたい。」…本時は落ち着いた良い授業が展開された。2 枚目は、B 先生の 1 月 13 日 (火) の学級活動で、「係決め」をして係毎に写真を撮る様子。日頃から、こどもたちとの距離が近い B 先生は最高である。◇下の 2 枚は、1 月 20 日 (火) の 5 年 1 組担任の C 先生の学年部研修で、算数「体積」の授業である。C 先生も笑顔が素晴らしいが、元気さがこどもたちを引き付ける。「自分の考えを発表してくれる人!」と手を突き上げた様子。先生の姿につられ、「はい!」とこどもたちも手を挙げた。こどもたちが、元気あふれる学校生活を送る源は、教師の明るい笑顔と元気さにある。(こ)



令和7年度「指導力向上ドック」の結果から

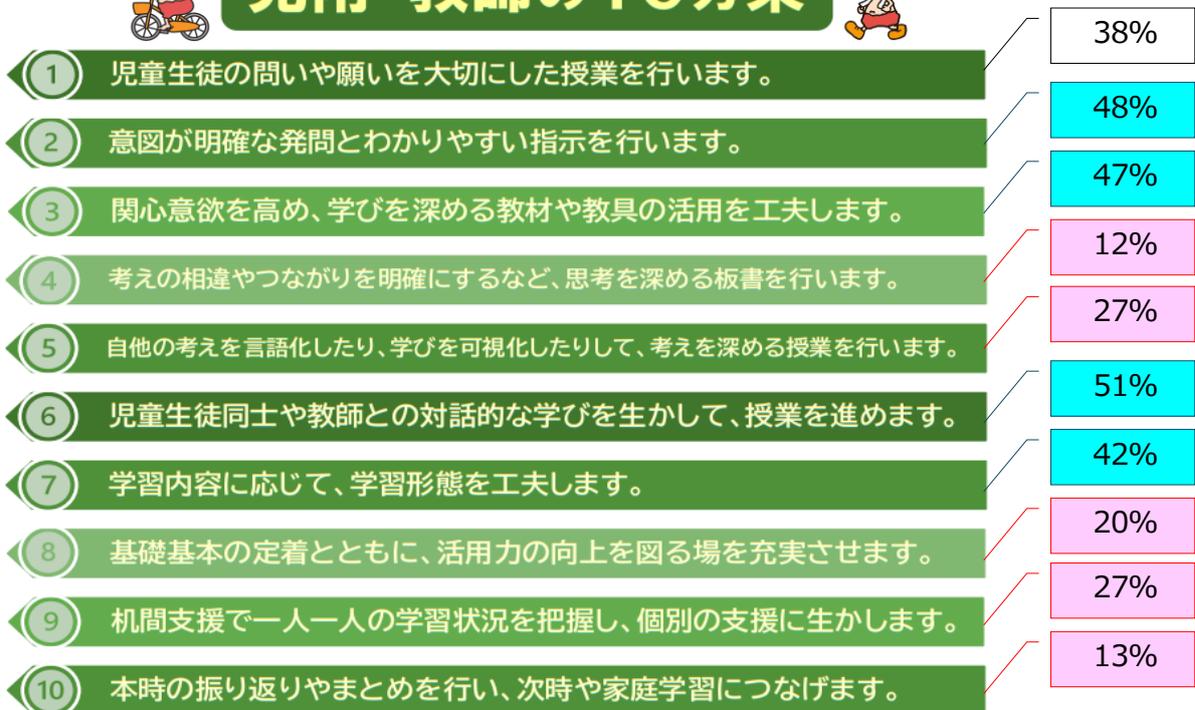
学力向上や指導力の向上のために、「師がく」との連携によって、「見附教師の10カ条」を指標として自己診断[※]する「指導力向上ドック」を集約したところ、下記の結果となりましたのでお伝えします。

[※]自己診断…見附教師の10カ条の中から、教師が自分自身を振り返り、今年度達成できた項目を選択（複数項目選択可、最大5項目まで選択）

成果が見られた項目で、特に「関心意欲を高めること」や「対話を通じた学びの充実」については、令和7年9月の中央教育審議会・論点整理で強調されている『一人ひとりの「好き」（興味・関心）を育み「得意」を伸ばしながら、それらを原動力として学び全体への動機付けを図っていく取組』『当事者意識を持って、自分の意見を形成し、多様な他者と対話や合意を図る取組』と合致しています。今後は、この成果をさらに発展させ、「思考を深める板書」や「学びの可視化」等を通じてこども同士の考えの相違や価値付けをし、より質の高い探究的な学びを実現し、こどもたちが「自ら学び、未来を創ることができる」姿を共に創り出していきたいと思います。



見附 教師の10カ条



<「師がく」受講者の声>

こどもがどのように学んでいくかを想像し、必要な支援はいつどこで起きうるのか、あるいは逆にここは支援を入れず、対話の必要性を与えた方がいいか等、こどもの実際の姿を想起しつつ授業を作っていくようになりました。

毎年同じ指導者から授業を見ていただくことで授業者の変容がわかり良いと思いますが、担当教科ではない指導者から見てもらうことで、新しい視点を得ることができることも、同じくらい価値があると思いました。

今年度、振り返りのやり方を改善して取り組んだ。振り返りを授業の終末に行うのではなく、授業開始時に、ミニテスト形式で、前時の授業内容を確認させる活動をペアで行った。学習内容の定着に課題があると感じていたが、前時からのつながりを意識して取り組ませることで、単元を通した学習内容の定着状況に改善が見られた。

2月

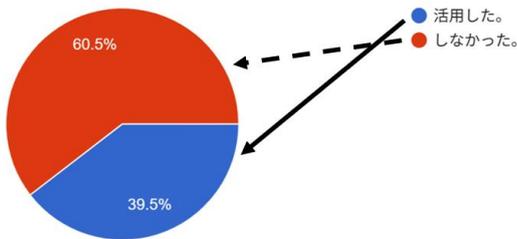
科学教育部



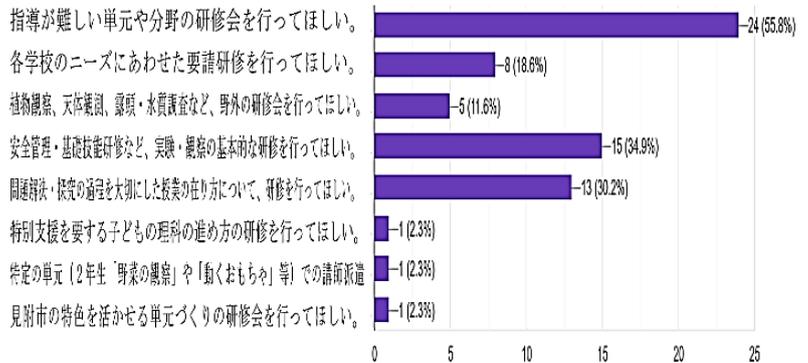
【事業アンケートのご協力ありがとうございました】

当センター科学教育部の事業アンケートに、ご協力いただきありがとうございました。次のグラフは、小学校と中学校の計43名の先生方から回答いただいた結果です。

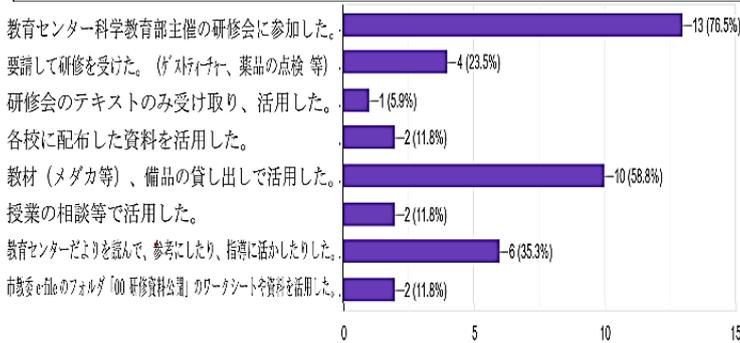
本年度、教育センター科学教育部を活用しましたか。



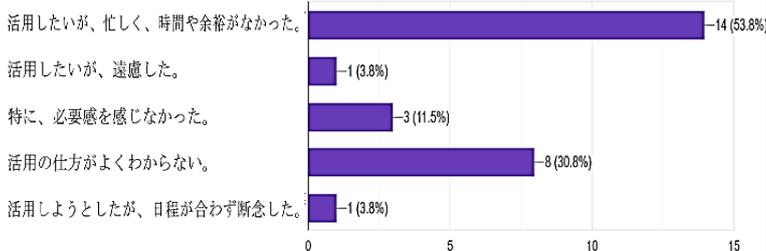
来年度、研修会では何に重点をおいてもらいたいですか。



どのように教育センター科学教育部を活用しましたか。



活用しなかった理由を教えてください。



アンケートの内容から、教育センター科学教育部を活用したと答えた先生方は、おおよそ4割でした。活用した先生方は、研修会への参加、教材の提供・貸し出し、おたよりの活用、要請研修等で活用しています。活用しなかった先生方の中で、「活用の仕方がわからない」と答えた先生方も多かったため、今後も幅広く活動を認知していただけるようにPRしていきたいと思えます。また、先生方のニーズにお応えして、理科授業の準備の負担が少しでも減ったり、単元の指導の見通しがもてたりする等、先生方が来て良かったと感じる研修会を企画・運営していきたいと思えます。今後ともよろしくお願いいたします。

理科に関することでお困りのことがございましたら、ぜひ、教育センター科学教育部までお気軽にご連絡をください。一緒に解決策を探りましょう。



科学の公園

実物を見ながら学習する効果

見附市立見附中学校 島岡 駿

理科や社会の授業、場合によっては数学の授業で実物を見せることで、児童・生徒に実感をもたせ、学習した知識と生活体験を結び付けようとするところがある。その際、実物を触ったり、見せたりすることがどの程度学力の定着に効果があるのかを明確にすることで、必要な支援やICTの有効な活用を考察できる機会となると考え、以下のような実践研究をした。

1 方法

- (1) 中学校1年生の「光」の単元で、凸レンズによって像ができるまでの光の進み方を作図する学習場面でいった。
- (2) 作図方法を説明する際、ある学級は作図のみを説明した（演示なし）。一方の学級は作図に加え、ICTを活用して、実物をモニターに映しながら説明した（演示あり）。
- (3) 両学級で指導した内容の学習テストを行った。
- (4) 学習テスト後、両学級の指導の差をなくすため、改めて同様の学習指導を行った。

2 結果

- (1) 学習テストの結果は右表のようになった。
- (2) 正答率を比較すると、知識・技能に関する問題では、演示なしの学級は57.1p tに対して、演示ありの学級は60.6p tであった。思考力・判断力・表現力に関する問題では、演示なしの学級は43.5p tに対して、演示ありの学級は47.9p tであった。全問題では演示なしの学級は50.8p tに対して、演示ありの学級は54.7p tであった。

問題番号	演示なし			演示あり		
	正解数	不正解数	正答率	正解数	不正解数	正答率
1	18	3	85.7	19	1	95.0
2	15	6	71.4	17	3	85.0
3	2	19	9.5	4	16	20.0
4	16	5	76.2	15	5	75.0
5	4	17	19.0	6	14	30.0
6	13	8	61.9	11	9	55.0
7	10	11	47.6	10	10	50.0
8	18	3	85.7	15	5	75.0
平均	12	9	57.1	12	8	60.6
問題番号	演示なし			演示あり		
	正解数	不正解数	正答率	正解数	不正解数	正答率
9	11	10	52.4	9	11	45.0
10	6	15	28.6	10	10	50.0
11	10	11	47.6	8	12	40.0
12	12	9	57.1	16	4	80.0
13	2	19	9.5	2	18	10.0
14	9	12	42.9	11	9	55.0
15	14	7	66.7	11	9	55.0
平均	9.1	11.9	43.5	9.6	10.4	47.9
全問題	演示なし			演示あり		
	正解数	不正解数	正答率	正解数	不正解数	正答率
平均	10.7	10.3	50.8	10.9	9.1	54.7

3 考察とまとめ

実物を見せた学級は、学習テストの正答率が3.5p t高い。データ数が少なく、統計的に有意とはいえないものの、実物を見せることは学力の定着に一定の効果があると考えたい。

今後、単元や演示の方法を変えたり、ICTの活用方法を変えたりしながら比較する等、意図的・計画的に実践研究を重ね、単元ごとの有効な演示方法やICTの活用方法を明確にしていきたい。

当センター科学教育部兼任所員の見附中学校 島岡 駿先生からご寄稿いただきました。